



NO.411

R3年10月1日

-発行-

〒869-1217

熊本県菊池郡

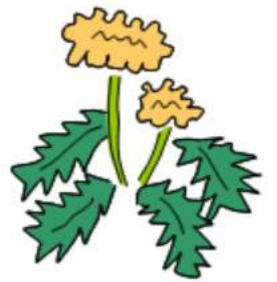
大津町森54-2

社会福祉法人

三気の会

三気の里

☎096-293-8100



「施設のレベル」

理事長 松田 健



玄関がきれいであることはいまでもなく大切だと思います。施設のレベルを図るものさしの一つでもあると思っています。きれいにしていきたいです。

施設の見学をさせていただいたり、施設内に洗濯洗剤、トイレ洗剤などが放置してある施設をたまに目にします。利用者の方の中に異食する人がいないのかもしれませんが危機管理上好ましくないと考えます。気付いてすぐに対処する職員がいないと大きな事故につながります。

職員の挨拶が良いかどうかも大切なことです。停止礼を奨励しています。すべての場面では難しいのですができるだけ実施するようにしてい

ます。

施設のレベルを図るものさしとして、管理者とスタッフとの意見交換ができていくかも大事なことで考えます。この点は十全にできていないので努力していきたいと思っています。管理者として意見を求めます。そのための指示・命令を行います。毎日だったら嫌ですが、時々です。その時に意見を出してくれるととても感謝します。みなさんの意見に耳を傾けようと思います。

先日、ペーパータオルの件で意見を募集しました。ペーパーホルダーからペーパータオル10〜20枚ぐらい取られる利用者の方がおられるためです。意見をもとに次回会議の時グループワークを実施します。

利用者のことやスタッフの福利厚生に関する件などみんなで考えていきたいです。それができるか、活発であるかは、良い施設、組織であることこの目安の一つだと思います。自

分の意見が採用されることは、(マスのローの)自己実現にもつながります。働きやすい職場、働きがいにもつながっていくのではないのでしょうか。些細なことであれ、みんなで考えていくことは大切だと思います。

大事なことは、何かできることはなにかという視点でアイデア(案)をみんなが提案してくれることです。また、管理者がその点をきちんと評価することも大切だと思います。

例えば、嚙下能力が落ちた方にはどうしたらいいでしょうか。そのことをみんなで考える職場になりたいです。のどのところを一日2、3分マッサージする。発言する機会を意図的に設け、機能の維持を図る。昔は反省会といって班の活動の最後に一言ずつ言ってもらっていました。

言えない方は口真似だけでもして「がんばりました」と。ご飯が終わって移動する時、利用者の方に「こちらさでした」といってもらった場面

を作っている支援者を見るとうれしくなります。作業中話しをするのはダメかもしれませんが。作業が終わったあと、話しをすると「いまおやつ時間だからダメです。」と言われます。「ちょっとまって」「ちょっとまって」と言ってしまうとそのままにしていることは支援員ならおかた「ある、ある」話ではないでしょうか。話をする時間を設けて、常に向き合っていきたいと思っています。

過剰に声を出す人は話題になります。声を出さなくなった人は話題にならない場合があります。話もしなくなったら、生きがいをもてなくなつた、食事も飲みこめなくなつた。一連のことはセットで起こる場合があります。話しかけ、マッサージして、食事をつきそつすることが必要だと思います。

繰り返しになりますが、施設のレベルが上がるようみんなで考え、意見を出し合うような施設にしていきたいと思っています。





10月



自治会 「運動会に向けて」

今年も、運動会の季節が近づいて来ました。自治会では、運動会を盛り上げるべく、毎年得点板を作成しています。飾りのデザインを考える係、ハサミで切る係、それぞれの得意分野を活かし役割を決めました。黄団や紫団の文字を見ながら、「今年も、優勝したいな」と、Mさん。「徒競走でまた1番とれたらいいな」と話されていました。また、「職員対抗の綱引きで、小崎さん力持ちだったなあ」「職員の出し物は今年もあるかな？」と話す、Fさん。それぞれ、運動会の思い出がある様で、聞いていて嬉しくなりました。今年は、どんなエピソードが生まれるのでしょうか。コロナという状況を少しでも忘れられるような、そんな一時となります様に！！

支援員：元杉朋世



広報・IT係 「三気の里の現在を伝える」

広報・IT係は、三気の里の「現在」を、三気の里を利用されている皆さま、ご家族、関係各所の方々に、お伝えすることが大きな役割です。これまで色々なイベントや地域行事に参加させてもらったり、三気の里での行事にお越しいただいて、三気の里の事、利用者の皆さんの様子を知ってもらう機会がありましたが、一昨年から新型コロナウイルス感染症により、この機会は大きく減少しました。この時期だからこそ、機関誌やホームページを通じて、三気の里の「現在」を伝える大きな役割があると感じています。

読者の皆さんに写真を通じて利用者の皆さんの様子を感じてもらいたい事、言葉（文字）で三気の里の取り組み、利用者の皆さんの暮らしや成長をお伝えすることの意味をスタッフ一同考えながら、これからも読みやすい、わかりやすい機関誌作りを目指していきたいと思えます。そして、これまで三気の里を支えて下さった、利用者の皆様やご家族をはじめ、地域の皆様、関係各所の方々に、それから、今後三気の里と関わっていく皆様に、三気の里の「現在」を伝え続けていきたいと思えます。

支援課長 岩田幸児

クラブ活動 「新たな活動」

今年度より新たなクラブ活動の提供を目的に、創作、芸術、ダイナミックリズム、音楽、eスポーツの5つのクラブを立ち上りました。今回はその中でeスポーツ活動を紹介します。eスポーツとは、コンピューターゲームをスポーツ競技と捉えたもので、業者と提携し利用者の方が楽しめる機材を提供して頂く事になりました。今行っているゲーム内容としては、「太鼓の達人」と「マリオカート」の2種類。Aさんは「太鼓の達人」に興味津々。いざやってみるとボタンが2つある事で、どちらのボタンを押せば良いのか迷ってしまい、画面を見ながらボタンを押す事が難しい状況です。その為、どちらを押しても出来るように設定すると、画面を見ながら笑顔で音楽に合わせてボタンを押して楽しむことが出来ました。Bさんは「マリオカート」が気になる様子。支援員が付き添い、手を添え一緒に操作していくところから始め、徐々に手を離していくと最後には自分でスティックを握って操作し、真剣な眼差しで画面を見つめ、まさに“夢中”になって見事1位になることができ、とても喜ばれていました。今後は色々なゲームの内容を増やしていき、更なる活動の幅を広げていきたいと考えています。

副主任 松村雄一



環境美化係 「快適な生活へ」

環境美化のひとつに掃除があります。掃除とは散らかったものを整理整頓して、ホコリやゴミを無くし、きれいに磨き上げることです。しかし昔から、「掃き清める」などの表現があるように、その場所を清めて浄化する意味もあります。これは自分の心を清めることにもつながります。

三気の里では、朝の日課で掃除を行なっています。自分が使う部屋、場所は自分で掃除をする。利用者の皆さんは自分のペースで一生涯懸命掃除をされています。スタッフも清潔、安全、施設の維持を保つためにトイレ掃除、草刈り、害虫駆除、エアコンフィルター掃除など日々環境美化、整備に努めています。「細かいところに気づく」掃除も支援も同じだと考えます。小さな気づきが安心できる生活につながります。今後も小さな気づきを大事にし、目標とする「快適な生活」へと繋がるよう努めていきたいと思ひます。

支援員 久米善久

療育雑記

「備えるということ」

支援課長 岩田幸児

私達は、普段家庭や職場において、いざという時に備えて、色々な物を買ひ揃える様にしていきます。また物を揃えるばかりではなく、それを「いざという時」に適切に使用出来るようにその運用の仕方も考え備えています。皆さんも同じように色々な準備をされているのではないのでしょうか。

5年半前、私達は二〇一六年4月に「平成28年熊本地震」を経験し、更にその意識は強くなって来たように感じています。定期的に実施される避難訓練等もそれにあたると思います。そして、二〇一九年に発生し、世界中を恐怖に陥れ、現在も私達の生活を制限し続けている新型コロナウイルスウィルス感染症。日本での感染が広がりはじめ、様々な情報が出始めると、日本中がマスクや消毒等を準備し、家庭で学校で職場で社会全体が感染予防に向

けた対策整備がなされました。三気の里でも必要な備品を揃え、感染予防、感染拡大防止に向けた対策を進めました。

このような準備や対策は、災害に限った事ではなく、私達が利用者の方々を支援している“療育”の中でも同じようなことが必要だと感じています。

先日ある利用者Aさんとの個別の取り組みを3日間行いました。取り組みを始めるにあたり、利用者の方、支援員それぞれに3日間を通しての目標と1日の目標を設定し、それを実施するための意思伝達ツールや必要な教材を準備し臨みました。Aさん上手に伝わるにはどのような意思伝達ツールが必要か、課題達成に向けてどのような教材作成が必要か等、Aさんの理解度や達成可能な課題設定を、一緒にセッションに取り組む支援員間で相談しながら準備を進め、いざ取り組みへ。それから3日間、1日のセッションを終え、スーパードライザーを含めた反省の中で、上手く伝わった時とそうでない時を比較分析し、道具の問題なのか、提示の仕方なのか、達成

可能な課題設定であったか等を振り返り、翌日の取り組みに向けた“備え”を行いました。

療育の場で考える“備え”は、単に物を準備するだけではなく、前述したように、そのツールが利用者の方の理解度への適切さや達成可能な課題であるか、どのような形で使用するのか等、利用者の方それぞれにおいて考える必要があります。そして、どんなに良い道具を購入したり、作成して“備え”ていても、それを適切に使用出来なければ、支援のツールとして活用出来ません。“備えた”道具を、適切に提示出来る支援員の力量も必要になってきます。

どのような支援が利用者の方に伝わりやすいか、理解し易いか等、利用者の方の事を考え色々な視覚的な情報や教材を準備して、実際の支援で活用してみる。そして、新たなツールを考え“備える”。このトライ&エラーの繰り返しですが、より良い支援となり、更には支援員の力量をあげることも繋がると考えます。何より、そのことが利用者の方の生活の充実に繋がる事が、私

達支援員の仕事の“やりがい”であり、魅力であると感じています。

三気の里が開設され35年。利用者の方も年齢を重ねてきました。内科的な疾患による検査や検診、若いころには想定出来なかったような怪我等で、緊急の通院、検査、入院という事も増えてきました。利用者の方は障がいの特性により、この事態を容易に受け入れられる方々ばかりではありません。しかし、日頃の療育の中で“備え”を積み重ねておくことが、「いざという不測の事態」であっても、支援員は慌てることなく、利用者の方が適切な医療行為を受けられる為の支援が出来るのではないかと思っています。

これからも、日頃の療育の中で常に、いざを考え、“備え”を意識しながら支援していきたいと思います。



①おなかの おとを ききます



高齢化対策委員会

「当たりの前のことを当たりにする重要性」

主任 石丸直美

機能訓練と同じように大事な
こととして、個々の機能にあっ
た物を提供する、身に着けても
らうことだと考えています。敷
物（マット）、履物は滑り難い
ことと引掛かり難いこと、そ
して厚み、毛足の長さ等で足を
取られないこと等に注意をしま
す。着るものは裾や袖丈があっ
ていて広がっていないこと。袖
や裾が物にひっかかる、踏んで
踏く等あってはいけないからで
す。その他にも脱いだスリッパ
は端に寄せて揃えること。出入
り口に置かないこと。この2点は
口うるさく言い、利用者個々に
守ってもらいます。出入り口で
スリッパを跨ごうと足を上げる
とそのままひっくり返ってしま
う人がいるからです。また車椅
子を利用していると通れないか
らです。他にも沢山の注意、配
慮が必要です。歳を重ねると
もに、今まで気にもならなかつ
たことに不自由さが起きてきま
す。利用者が実際に危険な思い
をする前に気づき、回避してい
くために身体機能の変移、その

対策をスタッフ皆で学び実践し
ていきたいと思えます。

GHはじめ

「新たな発見」

世話人 藤本優香

グループホームでは、利用者
さんの出来る事は出来るだけ利
用者さんにして頂くことと思い、
食事の配膳や盛り付けなどを衛
生面に十分配慮した上で、手伝っ
て頂くことがあります。そんな
中、先日小ぶりのハンバーグを2
つずつ皿に盛りつけてもらうと、
利用者さんは少し重ねて格好良
く置かれていました。

また別の利用者さんは生卵を
割るとき、絶妙な力加減で割る
為、殻が器の中に入りません。

一方で透明なガラスにカラフル
な水玉模様が入っている箸置
きを使用した時、毎回片付けし
そびれる方がおられました。透
明なので認識しづらかったよう
です。

グループホームはじめが出来
て10年間共に過ごしてきましたが、
「こんなことが出来るのか」や
「こういう見え方をしているの
か」と発見の連続です。これか
らも、日々の積み重ねで出来る
ようになる事も、年齢の積み重
ねで出来るようになる事もあるか

もしれません。その時々で出来
たことを共に喜び、出来にくく
なった時には、新たな対策を考
え利用者さんが快適に、安心し
て暮らせるようにしていきたい
と改めて感じました。



BETREE

「“キツカケ”づくり」

目標工賃達成支援員 鶴 雅美

カバンの中にいつも筆箱、そ
して自由帳が5冊以上入っている
Yさん。絵を描くことが大好き
で、作業が終わって送迎の車が
来るまで、絵を描いて過ごして
います。

頭の中でイメージをふくらま

せ、野菜や昆虫を組み合わせて1
つにした特徴的な絵を描かれま
す。小さい頃からこのような絵
を描かれており、自宅にはなん
と千冊以上作品を保管されてい
るそうです。今回、初めて県内
で行われる作品展に出展するこ
とになりました。以前からお母
様もYさんが書いた絵を出展で
きないかと模索しておられたた
め、お母様に作品展の情報を提
供したところ、興味を持たれ出
展することになりました。今ま
では絵について尋ねてもあまり
積極的には教えてくれなかった
Yさんですが、近頃はこちらか
ら絵について尋ねると嬉しそう
に教えてくださいます。このよ
うな“キツカケ”から三気の里
（入所・生活介護）とも情報を共有
し、興味のあるスタッフと共に
作品を出せないかと準備してい
ます。

Yさんの初めての経験を通し
て、私自身も障がいのある方の
アートに関して色々調べてみ
ると、絵画、工芸、写真、文芸
等様々な種類があることが分か
りました。このような“キツカ
ケ”が少しでも利用者さんの働
きがいや生きがいに繋がるよう
に、これからも支援していきたい
と思えます。

10月スケジュール

- | | |
|--|----------------------|
| 1日(金) BeTREEレクレーション、創作クラブ
(パン作り)、芸術クラブ(ハロウィン) | 20日(水) 誕生会 |
| 8日(金) 嘱託医来診 | 23日(土) 自治会活動 |
| 9日(土) 運動会 | 26日(火) 3班レクレーション |
| 12日(火) 大津町複合がん検診(女性)
苦情解決第三者委員会 | 毎週月曜日 訪問理容サービス |
| 15日(金) ダイナミックリズム | 毎週木曜日 ローソン移動販売 |
| 18日(月) 大津町複合がん検診 | BeTREE |
| 19日(火) 2班レクレーション | <営業時間>
8:00~18:00 |



betree314

看護師便り

「ワクチン接種後の感染予防が大切です」

看護師 小崎栄之

新型コロナウイルス感染拡大にともない三気の里では、利用者様と職員の感染防止に徹底して取り組んで参りました。入所者、グループホーム利用者、日中生活介護利用者合わせて100名を超える利用者様にも、今のところ感染者が出ることもなく、無事に過ごすことが出来ています。

利用者様には手を洗う事、消毒する事、マスクをつけることに加え一時帰宅や外出も制限され、変わりゆく変化に不安を感じられたことと思います。変異株も出現し、高齢者や基礎疾患のある方は今まで以上に重症化する恐れも懸念されております。私達職員は利用者様の健康と安全を最優先に考え、また職員がウィルスの媒介にならないように、早期に利用者様、職員にワクチン接種を実施致しました。利用者様の中には、ワクチン接種により外出や一時帰宅が出来ると期待をふくらませている方々もおられることでしょうか。保護者様におかれましては、

承諾書のご協力をいただきまして、心より感謝申し上げます。

今後、三気の里では、利用者様の健康と安全を最優先に感染予防対策を徹底して参ります。

開園記念祭

「今年度の開園記念祭について」

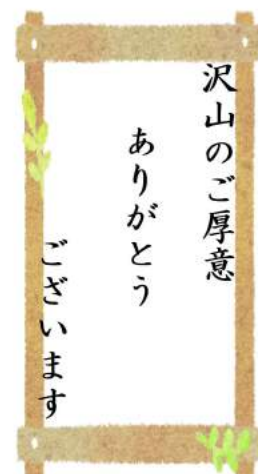
実行委員 中村圭助

三気の里では毎年11月に地域の皆様にお越し頂き、三気の里のを知ってもらい、皆様への感謝の思いを込めて、開園記念祭を開催させて頂いています。多くの皆さまのご協力・ご理解の下、私たちも楽しんで頂けるよう、努めております。

ワクチン接種等によって、徐々に新規感染者が減少する傾向にありますがまだまだ油断できず、今年度の開園記念祭も外部の皆様にご来園頂く形での開催は中止させて頂き、感染対策を十分に行ったうえで、三気の里の利用者の方、職員のみでの開催とさせて頂きます。楽しみにしていただいている地域並びに関係各所の皆様にかかれましては、何卒、ご理解頂きますようお願い致します。

コロナウィルスの感染が収束し、コ

ロナ前のような開園記念祭が一年でも早く実施出来、多くの皆様にお逢いできることを職員一同心より願っております。



沢山のご厚意

ありがとうございます

ございます

【寄付】
三気の里家族会様
加我 牧子様

【物品】

- | | |
|--------|--------|
| 柴田 博子様 | 道上 進様 |
| 上野 育夫様 | 岩切美佐子様 |
| 千田 修平様 | 岡崎 範子様 |
| 渡邊 京子様 | 田中 満子様 |
| 櫻木 勇夫様 | 井手上昌子様 |
| 魚谷 秀文様 | 清田 栄一様 |
| 松村 俊介様 | 宮本 眞一様 |
| 渡邊 正司様 | 金森 保様 |
| 森川 琇子様 | |

【後援会】

- | | |
|--------|--------|
| 中村 芳久様 | 中村 稔様 |
| 中村 富子様 | 中村 秀隆様 |
| 白井 桂子様 | 菊池フジ子様 |
| 牛島 敏章様 | 中原サト子様 |
| 新田 貴之様 | |